

far from 句の語法をめぐる *

井 上 徹

0. はじめに

本稿では、副詞化した **far from** 句の語法と辞書の記述に関する問題を取り上げる。昭和初期からこれまで行なわれてきた、慣用句としての **far from** 句をめぐる議論を振り返り、イギリスの学習英語辞典と日本の学習英和辞典における **far from** 句の記述を比較検討する。また、先行研究での論点を明確にし、コンピュータ・コーパスなどから得られる用例をもとに、**far from** 句の最新の語法を調査する。

1. far の語義の拡張

本論に入る前に、**far** の語義の拡張を確認しておきたい。**far** は元来、以下に示す (1) に見られるように、物理的距離が遠いことを表していたが、この基本的意味から、時間的距離 (2) や程度や関連性・類似性における距離 (3) へと語義のネットワークが展開している。

- (1) a. Just as she did so, a clock in the far distance began to strike midnight, and then a most peculiar thing happened. (BNC)
b. She was lying not far from her fiancé, eyes closed, deathly pale but apparently hardly injured. (BNC)

- (2) a. But with Christmas not that far off, some forward champagne planning is definitely in order. (BNC)
- b. It is always difficult for members of any industry to look far into the future and it is especially so for the farming industry. (BNC)
- c. The fashion began as far back as 1783 when King George IV, then Prince of Wales, first paid a visit . (BNC)
- (3) a. The reality was far different. (BNC)
- b. Thus practice and theory were often far apart, in this and in other ways, even in the classical feudalism, feudalism as it was known in the north of France between the ninth and the twelfth century.
- (BNC)

far の類義語に *distant* と *remote* があるが、距離・時間的に非常に遠く離れたことを表す *distant*、距離的に遠く離れていて隔絶されたニュアンスを示す *remote* と違って、*far* は離れたことを漠然と表す。このため、次に示すように名詞を修飾する形容詞として使われ、距離を具体的に表す場合には用いられない。

- (4) a. The Far East
- b. far side/far end/far corner/…
- (5) a. *I live ten miles far from here.
- b. I live ten miles (away) from here. (『ルミナス英和辞典』)

far は明示的な否定の形態素を含んでいないが否定の意味を表す準否定語であり、主として疑問文・否定文で用いられる。¹

- (6) a. ?His office is far from the station.
b. His office is a long way (away) from the station.
- (7) a. Why was it so far from the road? (BNC)
b. Their home is not far from the school. (BNC)

far が from を伴って叙述的に使用される場合、文字通りの空間上の距離を表す意味（「(場所) から遠い」）と程度という概念上の距離の意味（「～にはほど遠い」「決して～でない」「とても～できない」）が生じる。前者の意味を基本形とすると、後者は前者を基にして派生した比喩的な意味になっており、anything but, fail to, the last to などと同様に否定の意味を表す肯定の慣用表現として用いられる。以下では、程度を表す far from 句に特化して議論をすすめる。

2. far from 句をめぐる議論

far from 句は日常頻繁に使用される語句であり、戦前から様々な議論を呼んできたが、チョムスキー派の言語理論の分析に向かないため、文献では適切な関心が払われてこなかった。この章では、語法、文法の面でのどのような問題が議論されてきたかを振り返り、この句がもたらす問題点を整理する。

2. 1. 1 戦前の関心

far from 句に関する研究は、語法記述の観点からの東 (1983)、生成文法理論の観点からの Kajita (1977)、Inoue (1995)、Riemsdijk (2001)、歴史言語学 (文法化) の観点からの Akimoto (2001) などを除いてほとんど見られない。² しかし、far from の語法に関する議論は『英語青年』、『英語教育』誌上や語法書などで散見され、筆者が調査したところ、議論は1930年代まで遡ることがわかった。

語法に関する Q & A と言えば、『英語教育』誌を最初に思い浮かべるが、『英語教育』が昭和 27 年（1952 年）に創刊される以前は各種の英語研究の雑誌がその役割を担っていた。その代表格が明治時代から平成 21 年 3 月まで発行されていた『英語青年』で、昭和初期の『英語青年』を見ると、そこには英文解釈や語法に関する「質疑応答」と「英語クラブ」欄があることがわかる。³

『英語青年』第 81 巻第 6 号（昭和 14 年 6 月 15 日発行）の「英語クラブ」には「Far from easy」というタイトルの語法ノートが掲載されている。⁴ そこで問題になっているのは、以下の例に見られる *far from* に後続する形容詞である。

(8) a. The Puritans found life in the new country *far from easy*.

(*New Light Readers* by K. Mori)

b. It seems *far from clear* how this reputation for crustiness ever became attached to governesses.

(*The Times Weekly Edition* Dec. 8, 1938)

投稿者の Nakajima 氏は内外の辞書を引いても *from* の目的語としての形容詞が言及されていないことを指摘し、Jespersen の *MEG IV* (1931) の例を引いて、形容詞も *from* の補部になると述べている。⁵

(9) a. The prisoner went from *deathly pale to very red*.

b. It only changed in kind from *dark to darker*.

続いて同誌第 81 巻第 9 号（昭和 14 年 8 月 1 日発行）の「英語クラブ」で、おほの氏が「*far from + adjective*」と題して *far from* 句を取り上げている。

氏の論考の中で注目すべきは、この句を *next to* や *anything but* などと同様、副詞句として見直すべきであると提唱している点である。おほの氏は受験以来「*far from being* + 形容詞」と暗記してきたが、*being* を省略した「*far from easy*」型が *Wuthering Heights* などて頻繁に現れることを観察して、*being* がない方が「口調がよい場合が多い様に思はれます」とコメントしている。

from が前置詞である以上、その補部は名詞（相当語句）に限られるので形容詞が出現することをどのように説明するかということで議論が行われてきた。*far from* に形容詞が後続する場合は「*from* が前置詞として感ぜられることうすく、*far from* が *not at all* の如き *adverbial phrase* と同じ様に考へられて居るのでせう。」と述べ、*next to* (*impossible*) や *anything but* (+ 形容詞) などと同様、*far from* をイディオムとして捉え直すべきであると示唆している。⁶

さらに、同誌81巻第11号(昭和14年9月1日発行)の「英語クラブ」に T. K. の名前で「*Far from easy*」の寄稿が見られる。T. K. 氏の論考は、第6号の Nakajima 氏の論考を受けたものであるが、Nakajima 氏が引用している Jespersen の *MEG IV* (23.4 (2)) には前置詞または群前置詞 (*prepositional group*) が程度を示すときに *from* は形容詞や副詞をとると述べている箇所があると指摘し、*far from* は *by no means* と同じ意味で副詞化したものだとの見解を示し、齋藤英和中辞典の例 (*His English is far from perfect.*) をあげている。⁷ ここでも Jespersen を引用して、程度を表すイディオムとしての *far from* が支持されていることがわかる。Jespersen は *being* が省略されて *far from easy* ができたのではないと考えているところが興味深い。⁸

far from をめぐる議論は年が明けて同誌第82巻第9号(昭和15年2月1日発行)の「英語クラブ」でまた登場する。T. K. 氏の見解を受けて、大畑信晴氏が「*Far from* + *Adj* に関する一解釈」という文を寄せている。大

畑氏は、*far from* という連鎖を一つの副詞（句）として認めることにやぶさかではないとしながらも、*far from* に後続する形容詞は、形態は形容詞でありながらも内容的には名詞であるという新説を提唱している。⁹

同誌翌月号に掲載された「代名詞代用の形容詞について」という論考で、投稿者の森正俊氏はこれまでの *far from* に関する議論を総括するとともに、他の種類の形容詞の名詞用法 (*Handsome is what handsome does.*) へと議論を展開している。*far from* に関しては、*from* が形容詞を補部として取るという見解と *far from* 句全体を副詞と見なす見解が提案されてきたが、後者の立場をとる人は *from* が形容詞を従えないとみなしている。しかし、形容詞は、*from blue to red, little short of miraculous, dressed in white* などのように前置詞の目的語になりえるので、いずれの見解をとっても問題は生じないという主旨の意見を森氏は述べている。

以上、昭和 14 年から 15 年にかけての *from* に後続する形容詞に関する一連の議論を見てきたが、これを見守っていた細江（1942; 1954; 1966）は、「*far from* + 形容詞」は *being* が省略されたものではないという Jespersen の主張を支持し、どの品詞も場合によって名詞相当語句になりえると述べている。ただし、細江は慣用句としての *far from* は程度を表すので後ろに形容詞を従えることが可能であるという Jespersen 説が適切ではないと言い、意味的に *not at all* の意味を表していても *far from XP* の文法的重点はあくまで *far* であると述べている。¹⁰

2. 1. 2 限定用法の *far from*

ここで「*far from* + 形容詞」という連鎖が後続する名詞を修飾する限定用法の *far from* について触れておきたい。上で述べたように、戦前の日本では慣用句としての *far from* の統語的地位および後続する統語範疇に関する議論が中心で、名詞句を修飾する限定用法の *far from* については議論されていないようである。一方、この用法について海外で初めて触れたのは

Poutsma (1928: 502) のように思われる。Poutsma は形容詞を修飾する副詞的表現として *anything but, far from, more than* に言及し、次の *far from* の例を挙げている。

- (10) Perhaps that curious and far from attractive custom of serving a sorbet and a cigarette shortly after the middle of an elaborate dinner has done the damage. (Manch. Guard. 19/11, 1926, 403d.)

ここでは出典が文学作品ではなく *The Manchester Guardian* であるのが興味深い。that custom (of serving a sorbet and a cigarette) that is far from attractive などとするよりも *far from* を限定的に用いた方が表現が簡潔になる。新聞というスペースの限られたところでは、限定用法の使用はまさにうってつけかもしれない。また、Jespersen (1931: 387) には (11) の Swinburne の例が見られる。*OED*² にも 1873 年初出の (12) が挙げられていて、19 世紀後半にはこの用法が存在していたことがわかる。名詞句を修飾する「*far from* + 形容詞」の用法については以下の章でも取り上げる。

- (11) a young, idle, far from noteworthy man (*MEG IV* から引用)

- (12) It was in a far from unfriendly fashion. (*OED*² から引用)

2.2 戦後の議論

2.2.1 戦前の議論再び

戦前の *far from* に関する議論から 20 年経って、*far from* に関する質問が『英語教育』(1960 年 3 月号) の Question Box 欄に取り上げられている。その質問とは、① *far from* と形容詞の間に *being* が介在する場合とし

ない場合があるが、*from* は前置詞だから形容詞が続く場合は *being* が必要なのではないか、② *far from* の補部が名詞の場合、*being* はないようだが (e.g. *His work is very far from the average.*) *being* + 名詞の例はあるのか、というものである。

これらの質問を受けて、回答者の渡辺藤一氏は文頭に置かれる副詞的修飾語句としての *far from* (e.g. *Far from being rich, I am over head and heels in debt.*) と叙述用法の *far from* (e.g. *His English is far from perfect.*) を区別して考えるべきと説き、叙述用法の場合、*being* がない場合もある場合もあるとして両方の例を挙げている。渡辺氏は特に言及はしていないが、過去の議論をふまえて、二つの考え方を紹介している。

まず、質問者が *from* の目的語が名詞 (相当語句) であるべきだと考えている点について、Jespersen が挙げた *from bad to worse, from here, of late* などを引いて、名詞以外の語句も前置詞の目的語となりえるので *being* が不可欠と考えるのは正しくないとしている。渡辺氏の説明も戦前の議論同様、Jespersen (1931) に頼っていて、ある概念への接近またはそれからの逸脱をあらわすとき (*near to, next to, about, short of, the opposite of, far from*)、前置詞の目的語として形容詞や副詞が (名詞に転用されて) 許されると考えている。つまり、*being* が介在しない場合は前置詞の目的語は「…という概念」という意味で抽象度が一段階高くなり、*It is far from "perfect."* に近いという。

もう一つの考え方は、副詞的機能を持つ語句 (= 修飾語の役割を担う慣用句) として *far from* を捉えなおすことである。これに対し、*far from being easy* のように *being* が介在すると「(気楽) であること」という静的な状態の意味が強調されると述べている。*being* を *from* と形容詞の間に置く使い方は、やや回りくどい語法であるため例が少ないという。他方、*being* がない使い方は表現が簡潔になるため使用頻度が高くなると推測し

ている。

また、文頭に置かれる副詞的修飾語句としての *far from* については *being* を置くのがふつうだという。さらに、叙述用法の *far from* + 名詞の場合、*being* が介在することに文法上問題は無いが、名詞自体に「状態」の意味が感じられるため、あえて *being* を入れるの必要性が感じられず、したがって、*being* + 名詞の例は少ないという。

- (13) a. So far from being the creation of its time, it (=art) is usually in direct opposition to it.
- b. This is far from being the case.
- c. While it (=sentimental comedy) is far from being a complete in its first attempt, it begins a struggle against traditional comedy.
- d. You are far from being a bad man.

ただし、(13b) の *the case* は、*Is it the case?* (=Is it true?) や *if that is the case* (=if that is true) の *the case* と同類で、*be the case* でまとまりをなししているので、この場合は *being* を加えて用いるべきと考えている。

以上のように、この Question Box での *far from* に関する質問も回答も戦前のもので大差がないが、極めて限定的ではあるものの、初めて *being* の有無による意味の違いに触れられることになった。

2. 2. 2 大塚 (編) (1963)

この慣用法辞典の *far from* の項では、通時的变化について触れている。概略、*from* の目的語は本来名詞 (相当語) に限定されていて、形容詞を伴う場合は必ず動名詞にしなければならなかった (e.g. *He is far from being proud.*) が、今日では *far from* の連鎖が一種の副詞句のように感じられ、*being* の使用が不要になったと述べている。

なお、文頭に置かれる副詞的修飾語句としての *So far from* は *far from...* と *so far...that* が混合してできたとの説明がある。^{11 12} Burchfield (1996) は *so* を冠する *far from* + 動名詞の型は 17 世紀に登場し、Fowler が 1926 年に出版した語法辞典にも例を載せているように、20 世紀前半までは普通に通用していたと述べている。¹³

2. 2. 3 Wood (1967)

Wood は叙述用法では *being* なしの *far from* 形容詞・名詞の例だけをあげる一方、文頭に置かれる副詞的修飾語句の後には動名詞が続くとしている：

- (14) a. He is far from well/far from wealthy/far from a fool.
b. Far from being a spendthrift, he is most frugal where money is concerned.
c. Far from relieving my cough, the medicine aggravated it.

なお、この前置詞活用辞典では、先行する発話内容を強く否定し、単独で使われる *Far from it* (とんでもない、全然～ありえない) と関連構文である *far be it from me* (私は～するつもりはない) が初めて例示されている。

- (15) a. He is not a fool; far from it.
b. Far be it from me to pass judgement (*sic*) on his work.

2. 2. 4 金口 (1968)

『英語青年』誌上の「語法研究」欄に掲載されたこの短い論考は、内外の英語辞典における「*far from (being)* + 形容詞」の *being* の有無の記述を調べたものである。

金口氏はまず、*OED* が *far from ~ ing* の形を示しながらも、叙述用法の「*far from (being) + 形容詞*」の例を出していないことを非難している。Oxford 系のその他の辞典は *far from doing* について言及しているが、*far from (being) + 形容詞* については言及していないことを指摘している。また、アメリカの *Webster International Dictionary*³ は *being* のない形を例示しているという。そこで日本の辞書を見てみると、齋藤秀三郎の『英和中辞典』(大正4年)は *He is far from perfect* のように *being* のない形をあげていて、当時の『新英和大』『英和中』『カレッジクラウン』などは *Webster*³ 同様、*being* のある *far from* 構文を認めていない。勝俣の『新英和活用大辞典』には *being* のない例とある例が出ている一方で、当時出版されたばかりの『ローレル英和辞典』には *It is far from (being) perfect.* の例がある。このように辞書の記述に統一性が見られない。金口氏は、通時的な点を考慮して「*being* は現在では省略されるのが普通」という意味で、「*far from (being) + 形容詞*」と表記すべきであると主張している。最後に、*being* の省略については確定的なことは言えないとしながらも、時代とともに省略されることが多くなっていて、特にアメリカ人の書いたものに省略が多くみられるとコメントしている。

2. 2. 5 小西 (1974)

小西氏の前置詞活用辞典の *far from* の記述は 60 年代の議論をすべて取り入れた包括的な記述になっていて、現代の英和辞典の記述に近い。*far from X* の *X* が場所を表す場合、否定文・疑問文で使われるのが普通であり、肯定文で用いるなら *as, so, too*などを伴う方が普通だとしている。慣用句としての *far from* については、後続する *X* の範疇が名詞・動名詞・形容詞であると述べ、Wood (1967) や *POD*⁵ などの例を載せている。

- (16) a. He is far from a fool. [Wood]
b. I am far from wishing (=by no means wish). [POD⁵]
c. Although the names are similar, they are far from being exactly the same. [Lipman, *Point of Law*]
d. But when the children wandered off, their talk was far from idle.
[Carter, *Checkmate*]
e. Far from being bold mind-shapers, advertisers are timid to an appalling degree. [R. Gross, "The Language of Advertising"]

また、この far from は not at all と同じ意味を表し副詞化していて、(16d) に見られるように being が脱落して形容詞と直結することが多いことも言及している。一方で (16e) のように副詞的修飾語句として前置されて用いられる場合は、動名詞を伴うのが普通であることも指摘している。

2. 2. 6 Kajita (1977)

Kajita (1977) はこれまで見てきた語法研究からの論考ではなく、変形生成文法から端を発した動的文法理論の枠組みを正当化するために far from 句を取り上げている。(17a) の統語構造である (17b) では、統語上の主要部 far が意味上の主要部として機能し、from the city が統語上も意味上も補部として機能している。つまり、統語構造と意味構造が一致していて、かっこ内は無標の形容詞句 (AP) になっている。

- (17) a. The airport is far from the city.
b. The airport is [_{AP} far [_{PP} from the city]].

しかし、(18a) のように far from のあとに being + 述語が続くと、統語上の主要部 far を含む far from being が意味上の非主要部に、統語上の非主

要部の一部である *innocent* が意味上主要部のように感じられ、*far from* の連鎖は程度を表わす副詞句として機能すると述べている。

(18) a. Those people are far from being innocent.

b. Those people are far from innocent.

(19) Those people are hardly innocent.

この副詞化した *far from* は *hardly* や *scarcely* に近い意味を持ち、(21) の *far from* と *innocent* の関係は (20) における *hardly* と *innocent* の関係をモデルにして認められることになる。これが主要部—非主要部不一致(衝突)と名づけられた事例であり、統語的再解釈を可能にさせる。

(20) [_{AP} [_{Adv} *hardly*] [_{Adj} *innocent*]]

(21) [_{AP} [_{Adv} *far from*] [_{Adj} *innocent*]]

Kajita (1977) が語法文法的にも重要なのは、以下の限定用法の例 ((22)–(23)) と動詞句を前位修飾している例 (24) を初めて出したことによる。

(22) a. *the far from the city airport

b. those far from innocent people

(23) There are many far from superficial respects in which the intellectual climate of today resembles that of seventeenth-century Western Europe.

(24) It far from exhausts the relevant considerations.¹⁴

もし *far from* が副詞句でないとしたら、(22b) と (23) の形容詞句は連結

詞を伴わずに述語の句を構成することもできないし、(24)のように前置詞は動詞句を補部にとれないので、統語的再解釈規則等の特殊なルールを立てなくてはこれらの文を説明できなくなってしまふ。前置詞の目的語としての(代)名詞・動名詞の他に形容詞(25a)、副詞(25b)、前置詞句(25c)が後続可能であることを見てきたが、*from*が動詞を補部に取ると主張することはできない。^{15 16}

- (25) a. I got this bag *for free*.
b. *Until recently* they were living in Tokyo.
c. The cat came out *from behind the screen*.

以上、語法研究の観点から見ても、Kajita (1977) で示されている限定用法と動詞を修飾する例は注目に値し、日本で変形生成文法を学んだものなら誰でも一度は目にしたことがある例の一つになった。

2. 2. 7 東 (1983)

『英語青年』の「語法研究」欄に2ヶ月に渡って掲載された東(1983)の「*far from*の諸相(1)(2)」は言語学の本の読書中に収集した例を基にした初めての包括的で精緻な語法研究になっている。

まず、*far from* Xを(A) *be*動詞の補語(例：*Bill's own interpretation is far from clear.*)、(B) 主節に対する副詞的修飾語句(例：*Far from being kind, he was most cruel.*)、(C) 間投詞的独立句(例：*'Are you cold?' - 'Far from it!'*)、(D) 名詞句内の修飾語(例：*He was surprised at her far from polite answer.*)の4種類に分類する。

次に(A)タイプのものを(i) *far from* NP, (ii) *far from* doing, (iii) *far from* being NP, (iv) *far from* being AP, (v) *far from* APに下位区分する。東の関心は慣用句としての*far from*であるが、文字通りの(空間的・時間

的距離を表す) *far from* と慣用句としての(イディオムの・比喩的な用法の) *far from* が連続体をなしていることを承知して、字義通りの例と区別し、がたい例を排除することから始めている。また、*far from* に後続する要素 X の表すものが主語の表すものと存在が別に想定されている場合を「外在的 X」と呼び、X が主語の性質・属性を表す場合を「内在的 X」と呼んで区別し、細心の注意を払っている。

(Aii) 型のときは状態や事態が対象化され、それとの「距離」の存在が強調されるという。達成の可能性の薄さが強調されるため、「～するところか」に近い意味になる。この型では *far from* の前に否定辞が現れる例がないという。(Aiii) の *far from being NP* 型では、*far from* の前に否定辞が現れる例も *far* が比較級に変化している例もなく、同じ特徴は (Aiv) も (Av) も共有しているという。また、東は AP の前に *being* が入るかどうかの違いについても触れていて、*being* がない場合の AP には主観的判断・確信・感情などを表し、*being* がある場合は、客観的に事態を対象化して把握しているという。

far from が副詞的修飾語句として生じるときには、動名詞以外の要素は現れないという。この用法が文頭だけでなく、主節内部に生じることにも指摘している。また、この型には動名詞に意味上の主語が生じることがあることを実例(例：*so far from my new Chair representing the beginning of a new study here, teaching and research in the English language have had a long and spectacular history from the early days of...*) で示している。

東は字義通りの *far from* から慣用句の *far from* が連続体をなしているものと考え、辞書の記述にはこのつながりを示しながら、各タイプにわけて記述すべきと主張しているところがこれまでの論考と大きく違っていると見える。

2.2.8 小西(編)(1989)

小西（編）（1989: 671-672）は *far from* に後続する範疇 *X* が名詞や動名詞の場合、ある状態からほど遠いことを表し、*X* が形容詞や過去分詞の場合 *being* がしばしば省略されて慣用句として否定の意味合い（「決して *X* ではない」）が強くなるという。慣用句としての *far from* は「くだけた口語に多く見られる」として以下の例を挙げている。

- (26) a. (The) problem is far from easy. – *COD*⁷
b. I am far from satisfied with your results. – Swan
c. She is far from being pleased about it; she is very angry. – LD
d. The Japanese, far from being a nation of “workaholics”, give themselves as wholeheartedly to play as to work.
– *Keene, Japanese*

また、*far from* に後続する要素として、名詞・動名詞・形容詞・過去分詞のほかに、副詞がくることもあると述べている：

- (27) Mere hints of trouble they may have been, but I took them far from lightly. – Cowie et al.

さらに、副詞的修飾語句としての *far from* の場合、(28) のように、*so* を伴うことがあることを指摘するばかりでなく、間投詞的独立句 (29) の用例も挙げている。

- (28) a. (So) far from seeking help he offered it. – *COD*⁶
b. So far from taking my advice, he went and did just what I warned him against. – LD

(29) It is not the most attractive pattern I have seen. Far from it!

– LDEI

小西（編）（1989）は *far from* に後続する統語範疇として副詞を挙げ、より網羅的になっている。

2. 2. 9 安藤・山田（編）（1995）

慣用句としての *far from* に関して、安藤・山田（編）（1995: 221）は次の例を挙げ、*far from* (being) AP では *being* が介在しない方が頻度が高く、*far from* に NP が後続する場合 *being* は付かないとしている。

(30) Your account is far from (being) true. – OALD⁴

(31) Your account is far from the truth. –*Ibid.*

引用されている例が OALD⁴ に挙げられているものに限られている上、東（1983）が挙げている *far from being* NP を認めていない点で記述的妥当性を満たしていないように思われる。このことに関しては4章で筆者の実例をあげ、彼らの主張が正しくないことを例証する。

2. 2. 10 八木（1996）

八木（1996: 187–189）は BNC やアメリカの新聞などから得られる用例をもとに「*far from* (being) X」構文における *being* の有無、*far from* NP の意味解釈、*far from* PP の3点を検証している。

being の有無については、*far from* に後続する X が形容詞の場合、*being* が介在しない方が頻度が高いと述べている。

(32) 11th-hour shoppers are far from alone in crowded malls in an apparent retreat, ...

(33) Far from being fearful that the multicultural curriculum will be divisive, she said: “It will build more of a sense of community...”

一方、後に続く要素が名詞句、前置詞句、あるいは過去分詞の場合、being 介在しているほうが普通だという。

(34) I can make the best case for Indian, and Polish and Lithuanian, well, how sweet, but let me tell you that Turkish is not that far from being a contender.

(35) Latin Investment shut its door for good a year ago tomorrow, wiping out depositors, embarrassing District officials and creating a financial and legal morass that is still far from being resolved.

far from NP については、慣用句としての far from がいくら副詞化しているとはいえ、from は元来前置詞であるため、far from に直接、名詞が後続すると慣用句としての解釈がしにくくなり、距離が隔たっているという字義通りの far + 前置詞の解釈になるという。このため、慣用句としての意味にしたければ being が必要になると説明している。

(36) a. He is far from being a critic.

b. He is far from a critic.

(36a) は「彼は批評家というにはほど遠い」という意味になり、(36b) は無標の解釈では、「ある批評家から遠く離れた所にいる」の意味に解釈される可能性が高いとしている。ただし、八木も指摘しているように、critic に定冠詞をつけなければ容認されない。八木はさらに次の例をあげ、

far from に前置詞句が後続する場合、being が介在しなければ容認されないことを指摘している。

(37) a. The matter is far from being of any significance.

b. ?The matter is far from of any significance.

(38) a. He is far from being in an important position.

b. ?He is far from in an important position.

(37b) は前置詞が連続する有標の構造になっており、このままでは解釈がしづらいため being を要求するという。また、(38b) が (38a) より容認可能性の点で落ちるのは、(38a) の being が存在を表していて、不可欠な要素であるため省略できないという。

次に八木は「far from (being) 形容詞・過去分詞」の構文で being の有無による意味の違いを検討している。

(39) a. She was far from being honest.

b. She was far from honest.

(40) a. The question was far from being resolved.

b. The question was far from resolved.

八木は being が介在する場合は、being XP が一時的な状態を述べるのに対し、being が介在しない場合は、形容詞・過去分詞の表す意味からはるかに離れているという主観的な表現になっていると述べている。

2.3 まとめ

以上、戦前から行われてきた far from の語法に関する議論や語法書の記述を検討してきた。慣用句 far from の from が前置詞であるならば、その

目的語は必ず名詞（相当語句）であるという考えのもと、*from* のあとに形容詞が続いた場合、その範疇をどのように考えるのか、または *far from* 全体を副詞化したイディオムのようにみなすのかが議論の出発点であった。戦後はこれらの議論に加えて、*being* の有無によるこの構文の意味解釈の違い、*far from* に後続する範疇、*far from XP* という連鎖に課せられる制約へと、語法記述の精度を高めるために関心の幅が広がっていったことがわかった。

3. 英英・英和辞典における *far from* の記述について¹⁷

この章では、上で検討してきた語法が内外の英語辞典でどのように記述されているか検証する。点検の項目は① *far from* に後続する統語範疇に関する記述、② *being* の有無の記述、③限定用法の3点である。

3.1 イギリスの学習英語辞典

イギリスの学習英語辞典で *far from* の取り扱いを見ると、最小限の記述に留まっていて、後続の範疇には触れず用例のみがあげられていることがわかる。また、限定用法の *far from* 句の例を挙げている辞典はない。

以下に代表的な学習英語辞典の例をあげる。¹⁸

(41) The situation is far from clear. (*CALD*³)

(42) a. It was obvious that much of what they recorded was far from the truth...

b. Far from being relaxed, we both felt so uncomfortable we hardly spoke...

c. It is still far from clear exactly what the Thais intend to do.

(*COBUILD*⁵)

(43) a. Conditions are still far from ideal.

b. Far from helping the situation, you've just made it worse.

(LDCE⁴)

(44) a. The battle is far from over.

b. Far from seeming glad to see him, Rose looked almost angry.

(MED)

(45) a. It is far from clear (=it is not clear) what he intends to do.

b. Computers, far from destroying jobs, can create employment.

(OALD⁵)

CALD³ は、「far from sth」は“certainly not something”とだけ注釈をつけ、(41)のみを挙げている。この例から、far from に後続している範疇は形容詞で being が介在しないことが示されている。また、副詞的修飾語句の far from doing の記述も見られない。

COBUILD⁵ は *if you say that something is far from a particular thing or far from being the case, you are emphasizing that it is not that particular thing or not at all the case, especially when people expect or assume that it is.* と述べ、(42)を挙げている。その例を見ると、far from に後続する要素は名詞、動名詞、形容詞であり、far from が be 動詞の補語の場合、CALD³ 同様、being が介在しないことが示唆されている。

LDCE は初版 (1978) で *She is far from being pleased about it; she is very angry.*、*The show was far from being a failure; it was a great success.* と being 付きの例文を挙げたが、第2版 (1987) で being を付けない *I'm far from pleased with your behavior.* に差し替えた。その後第3版 (1995) では、far from pleased/happy etc を太字で成句扱いにし、*Michael walked in, looking*

far from happy. をあげたが、最新の第4版(2008)では成句扱いをやめ、*far from sth*とだけ注記し(43a)の例を出している。また副詞的修飾語句に関しては、初版と2版で *(So) far from taking my advice, he went and did just what I had warned him against*. をあげていたが、第3版では *far from being* と *far from doing sth* を太字で個別に掲げ、*Far from being a reactionary he's actually quite liberal in his views.* と *Far from helping the situation, you've just made it worse.* の2例を挙げた。第4版では記述を簡略化して *far from doing/being sth* と示し、(43b)の1例のみを挙げている。

MED も *LDCE*⁴ 同様、*far from sth* と *far from doing sth* を太字でかかげ、(44)を挙げている。上の3冊の辞書同様、*be* 動詞の補語として用いられている場合、*being* のない例(44a)を挙げている。

OALD は第4版(1989)で、*The problem is far from easy. Your account is far from (being) true/is far from the truth.* の用例をあげ、*being* のない形と *being* の省略可能な形を併記していたが、第6版(2000)以降、*far from sth/from doing sth* を太字でかかげ、(45)を挙げている。(45a)でも *being* のない例が与えられ、(45b)では副詞的修飾語句としての *far from doing* が主節内に挿入されている例となっている。¹⁹

以上、イギリスの学習英語辞典の記述を見てきたが、各辞典の最新版では(*be*の補語としての)*far from*の後に *being*がある例を載せている辞書はなかった。どの辞書にも共通することは *far from sth* (と *far from doing sth*) と記していることである。*sth* は名詞か代名詞であることはわかるが、*far from*の補部として出されている例はすべて形容詞であり、(外国人)学習者に誤解を与える可能性がある。用例から考えれば、*sth*には名詞相当語句ならどんなものでも可能であるということを示しているのであろうが、学習者にとってイギリスの学習英語辞典は必ずしも使いやすいとはいえない。

3.2 日本の英語辞典

3.2.1 学習英語辞典

次に日本の学習辞典における慣用句の **far from** の記述を見る。日本の学習辞典は各辞書で記述に違いがあるものの、後続の範疇や **being** の省略可能性について明記していて、丁寧な記述になっている。ただし、イギリスの学習英語辞典同様、限定用法について注記し、用例を挙げているものはない。以下に各辞書の用例をあげる。

(46) a. His story was far from what really happened.

b. Far from (being) shy, she was quite friendly.

(『アドバンストフェイバリット英和辞典』)

(47) a. He is far from (being) happy.

b. The problem is far from a solution.

c. Far from admiring him, I dislike him intensely.

(『アンカーコズミカ英和辞典』)

(48) His novel is far from (being) satisfactory.

=His novel is not satisfactory at all.

(『ジーニアス英和辞典』)

(49) a. Far from helping the situation, she made it worse.

b. My troubles are far from over.

(『ロングマン英和辞典』)

(50) a. His answer was far from satisfactory.

b. Far from hesitating, she willingly offered to help me.

(『ルミナス英和辞典』)

(51) a. He is far from (being) happy.

- b. The conflict in the region is far from over.
- c. He is far from alone in ... (…の点では彼だけではない)
- d. Far from respecting him, I dislike him.

(『オーレックス英和辞典』)

(52) a. He is far from (being) happy.

- b. The problem is far from a solution.

(『スーパーアンカー英和辞典』)

『アドバンスドフェイバリット英和』は *far from* の説明に *anything but, by no means* という同義語をあげ、*from* の後には名詞・代名詞・動名詞・形容詞がくると明記している。(46a) では *far from* が *be* 動詞の補語になっているときには *being* はなく、*from* の目的語が *wh-* で始まる名詞句になっている。また、(46b) では、副詞的修飾語句の場合、*being* が省略される場合もあることを示唆している。

『アンカーコズミカ英和』では「*far from* の語法」として、字義通りと慣用句としての *far from* の説明を加えている。後者の *far from* に後続する要素は名詞・動名詞・形容詞とし、それに対応する例を挙げている。そこでは、「*from* に形容詞が続く場合、*being* を付けないほうが普通」とコメントし、*being* をかっこ付けで表示する細かい配慮が見える。

『ジーニアス英和』も「*far* の語法」として (48) の例とそのパラフレーズを挙げているが、*far from* に後続する要素が名詞・動名詞・形容詞と明記している。また、*being* にはかっこを付け、「しばしば省略」と記している。なお、副詞的修飾語句としての *far from* については用例なしで、「(文頭で…するどころか (cf. *so far from doing*))」のみの記述になっている。

『ロングマン英和』は *far from doing sth, far from happy/satisfactory, far from over* を太字で示しているが、*far from doing sth* と *far from over* の例

のみを挙げている。

『ルミナス英和』は (50) を出して、(代) 名詞や動名詞のほかにも形容詞を伴うことが可能なこと、主節に対する副詞的修飾語句になる場合は (so) *far from* …となることを記している。

『オーレックス英和』も字義通りの意味から比喩的な意味への連続性を示しながら *not at all, by no means* の類義語を与え、*far from* の後には名詞・動名詞・形容詞がくることを明示している。

『スーパーアンカー英和』も *far from* XP の XP には名詞・動名詞・形容詞が後続するとし、「*from* に形容詞が続く場合、*being* をつけないほうがふつう」として (52) の例をあげている。

3. 2. 2 中型・大型英和辞典

最後に、国内の中型・大型英和辞典の用例を確認し、学習辞典には見られない目立った記述をあげる。

(53) a. It is far from (being) perfect [the case].

b. Far from showing any sympathy for the poor, the mayor despised them. (『ウィズダム英和辞典』)

(54) His report is far from (being) satisfactory.

=His report is not satisfactory at all.

=His report is anything but [by no means, not in the least] satisfactory. (『ジーニアス英和大辞典』)

(55) a. The building is far from completion.

b. His son is far from a fool.

c. far from perfect

d. be far from (being) pleased with one's salary

e. (So) far from weeping, the girl burst into laughter.

(『グランドコンサイス英和辞典』)

(56) a. This work is far from completion.

b. The storm, (so) far from abating, (actually) increased in its fury.

c. His explanation was far from satisfactory.

d. She seemed far from content.

(『研究社新英和大辞典』)

『ウィズダム英和』では、**far from** の後に続く範疇として名詞、動名詞、形容詞の他に動詞をあげているのが注目される。ただし、動詞の前で **far from** を使うのは「まれ」としていて、用例はあげていない。また、(53a) で示しているように、形容詞の前の **being** はしばしば省略されるとしている。

『ジーニアス英和大辞典』を見ると、『ジーニアス英和』とはほぼ同じ例が与えられ、**far from** のあとには名詞・動名詞・形容詞が続き、**being** はしばしば省略されるとしている。『ジーニアス英和大辞典』で注目されるのは、限定用法の **far from** に触れ、「最近では前置用法が多くなってきている」と注記して、**a far from satisfactory report** という例を挙げていることである。

『グランドコンサイス英和』は (55) の例をあげているだけで、**far from** の後にくる範疇を明示していない。ただし、**far from** の後に過去分詞が続く (55d) と (so) far from doing の例 (55e) を太字であげ、**being** の省略について記している。

『研究社新英和大辞典』は「形容詞に先立って、決して…ない (never)」としているが、他の範疇については言及していない。**far from completion/satisfactory/content** を成句として太字で示しているほか、副詞的修飾語

句が主文中に挿入されている例(56b)と叙述用法で be 動詞以外の例(56d)を出している。

3. 2. 3 まとめ

日本の英語辞典は河村重治郎が編集に参加した『新英和大辞典』(昭和2年、研究社)(通称、『岡倉英和』)以来、①必要十分な見出し語の選定、②的確な語義分類と訳語の配列、③すぐれた用例の配置(田島 1983: 117)の3つの条件を満たしながら、新語・俗語、文型表示、UC表示などの付加価値をつけて発展してきた。現在の日本の英語辞典の記述は3.1で見たイギリスの学習英語辞典の記述と比べると、語法記述は正確で、利用者にとって便利なものになっていることがわかる。最近のイギリスの英語辞典を見ていると、必ずしも用例中心の辞典が歓迎されていないように思われるが、辞書の執筆者が学習者に語りかける生きた用例があつてこそ、本当の学習意欲をかき立ててくれるものと思われる。

4. 分析

この章では、コンピュータ・コーパスの検索と手作業で得られる用例をもとに先行研究で議論されてきた問題点を検証する。

4. 1 データ

分析をすすめるにあたり、*The Corpus of Spoken Professional American-English (CSPAЕ)*、*ICAME COLLECTION of English Language Corpora* に収録されている *Australian Corpus of English (ACE)*、*Brown Corpus (Brown)*、*Freiburg-LOB (FLOB)*、*Freiburg-Brown (FLOWN)*、*Kolhapur Corpus (KOLH)* など、コンピュータ・コーパスを併用する。用例はコーパスの検索から得られたものと読書中に収集した303例を利用した。

4.2 結果と考察

far from の補部を 9 タイプに分け用例を分類したところ、①名詞 106 例、② doing 7 例、③ being 13 例、④形容詞 69 例、⑤副詞（場所）8 例、⑥動詞 3 例、⑦副詞的修飾語 79 例、⑧ it 10 例、⑨限定用法 8 例、となった。

①名詞（句）106 例のうち、明示的に場所を表すもの 67 例を除くと、慣用句としての far from NP は以下の例を含む 39 例であった。

- (57) a. Although we are still far from a complete understanding of these problems. (Brown 1.J)
b. In reality this is far from the truth and the true story behind its development reveals an amazing picture of political intrigue which misled the War Cabinet into giving approval for its construction. (FLOB.G51)
c. This was far from the case. (BNC EV4 515)

② doing の 7 例のうち、3 例が have + 過去分詞の例であり、それ以外の例は以下に示すように、*acknowledge/recognize, flag, admire, understand* であり、東（1983）が指摘していたように、達成の可能性の薄さが強調されていた。

- (58) a. This is far from acknowledging or recognizing those efforts as an accomplished fact. (Brown 1.B02)
b. Since then, months have passed and their enthusiasm for Rangers is far from flagging. (FLOB.E23)
c. The opinions of the Roman Church expressed in his own voice are far from admiring. (FLOB.G01)
d. In spite of my good results at Cambridge, I was far from

understanding the more practical aspects of business.

(FLOB.P17)

③ *being* の 13 例の内訳は、*being* + NP 7 例と *being* + AP 6 例であった。2. 2. 9 で触れたように、安藤・山田（編）（1995）は *far from* の後に NP が続く場合 *being* はつかないと述べていたが、次の例でわかるように、*being* + NP の形も使用されることが認められた。

(59) a. The musician is non-intellectual and non-verbal; he is far from being a literary hero, yet is a creative artist, yet is a creative artist. (Brown 1. G73)

b. But although Philip King and Falkland Cary's 1955 success contains plenty of comic exaggeration, it is far from being a farce. (FLOB.C09)

c. Illiteracy is far from being a mere technical problem.

(FROWN.F25)

d. ...but he was also far from being "the perfect Englishman." since he spent half of his life outside English, was deeply influenced by Continental ideas and ... (FROWN.J58)

e. To Adorno, listeners to popular music are far from being private critical spirits. (BNC RB3 816)

(60) a. Although it seems logical – for a disorder such as HD where childhood onset is exceptional – to confine testing to those who can consent for themselves, the situation is far from being clear in all circumstances. (FLOB.J13)

b. With an electoral base of 39.8 per cent of the vote in 1945, in reality the Conservative position always was far from being

hopeless. (FLOB.J58)

c. And yet illiteracy is far from being eliminated throughout the world. (FROWN.F25)

d. But that list is very far from being exhaustive and ... (BNC FU0)

④ far from + AP (69 例) で用いられていた形容詞の内訳は以下の通りである。

clear (6), satisfactory (6), confident (3), obvious (3), complete (2), naïve (2), self-evident (2), true (2), absolute, acknowledged, amicable, assured, calm, certain, characteristic, clear-cut, comfortable, common, commonplace, competitive, complementary, controversy, convinced, dead, dull, good-looking, easy, exhausted, extensive, finished, friendly, happy, ideal, impressive, kind, meditative, neutral, passive, patient, perfect, sufficient, silent, smart, smooth, stately, straightforward, tranquil, trivial, typical, villainous, etc. (各 1)

(61) a. ..., although it was far from obvious at the time, the gallery was treated to the first chapter of what promises to be one of the most exciting duels in sport for a long time to come.

(Brown 1.A38)

b. The outlook for entertainment electronics in 1961 is certainly far from clear at present, but recent surveys have shown a desire on the part of consumers to step up their buying plans for durable goods. (Brown 1.H)

c. Conditions for women and their babies in prison are far from satisfactory, but... (FLOB.B09)

- d. A group of Conservative activists in Huntingdon was far from happy at the prospective candidate their local association had finally chosen in 1976 to fight the next election. (FLOB.G22)
- e. For a world trying to recover from the Great War, the merits of free trade and laissez-faire were far from self-evident.
(FROWN.G70)
- f. Those producers would not have availed of her services if her English pronunciation was far from perfect. (KOLH.B16)
- g. This is far from true. (KOLH.B25)
- h. As compared to services available in some other countries our services are far from satisfactory. (KOLH.F19)

*LDCE*³ (1995) で成句扱いされていた *far from happy/pleased* と『ロンゲマン英和』で成句扱いされている *far from happy/satisfactory* を 1 億語からなる BNC で検索しても 1 例も現れなかったが、その他のコーパスでは以上のような結果が出た。

⑤場所を表す副詞の例

- (62) “So it’s not far from here?” (FROWN.N12)

⑥動詞句を修飾する *far from* の例

- (63) a. Thinking back on this in later years, he realized that nine years after that time he had far from finished his own journey.
(ACE. G. TXT)
- b. But she far from destroyed the material, as standing ovations greeted a selection from her “Between the Lines” classic album,

... (FLOB.C)

- c. Yet the electorally oriented ultra-right's slide in Germany had far from spelt the end of the "new right" that emerged throughout western Europe in the past decade. (BNC. CAG1155)

動詞句を修飾する例は Kajita (1977) と Inoue (1995) で 1 例ずつ挙げられているが、それ以外の文献では例示されたことがない。今回の調査で新たに見つかったのは上記の 3 例のみで、あくまで臨時に成立した用法 (nonce) といえる。

⑦副詞的修飾語は 79 例あり、全体の 37.5% を占める。

- (64) a. Far from creating fear, as the speaker suggests, preparedness – knowing what to do in an emergency – gives people confidence.

(Brown 1.B17)

- b. Far from being viewed as a way to cut costs, the centre's unique benefits should have been regarded as a valuable asset well 126 worth the cost of preservation. (FLOB.B17)
- c. So, far from it being appropriate to assimilate inner perception to outer perception, as Locke does, we must acknowledge that mental phenomena are the only phenomena of which perception in the strict sense of the word is possible; (BNC CK1 1298)

(64c) は今回得られたデータ中で、動名詞の意味上の主語がついていた唯一の例である。

⑧以下は間投詞的独立句 (10 例) の一部である。

- (65) a. I'm no women's libber, far from it, but... (ACE.G)
 b. I did not despair, however; far from it! (Brown 1.N06)
 c. And he hadn't been the only one. Far from it. (FLOB.K24)

⑨名詞句内の修飾語 (far from の限定用法) (8 例)

- (66) a. Many examples quoted later show a far from linear relationship between bulk concentration and grain boundary occupancy. (FLOB.J75)
 b. There's plenty of iron, but not near enough irony, in the squishy swashbuckling of ABC's inexplicable "Covington Cross", the first and far from the best (or worst) new show of the traditional fall TV season. (FROWN.C)
 c. Insurance of bank deposits – a far from slight contribution to contentment – was permissible, as well as the assurance that were a bank large enough, it would not be allowed to fail. (FROWN.F47)
 d. ...here will be undoubtedly be a far from perfect relationship between gender ideology and the division of labor. (FROWN.J27)
 e. they (...) began to see the whole situation in a different and far from fearful light. (KOLH.F10)
 f. and the most vocal demonstration in years on what the rest of the world calls South African soil of the strength of the ANC and its far from tribalistic affiliate, the South African Communist party. (BNC A1G 52)
 g. Michael Young's picture of a fully operative meritocracy suggests

that the dream of a fair and just society of this type may produce
a far from perfect reality. (BNC FB6 1003)

東 (1983) は *far from* XP の XP が (i) *being* + 名詞 (句)、(ii) *being* + 形容詞 (句)、(iii) 形容詞句の場合、*far* の前に否定辞が現れないと述べていたが、今回の調査では以下の 1 例だけ見つかった。

(67) In fact he was not far from being sick. (BNC A7A)

なお、*far from* の後に前置詞句が続く例は見つからなかった。また、2 章で述べたように、*far from* をイディオムとして取り扱うべきだという主張が戦前からみられた。*far from* が内部構造をもたない 1 語の副詞であるとすれば、その一部を *so* で修飾したり、比較級に変えたりできないはずであるが、実際には以下に示すように可能である。従って、イディオム説では原理的に説明できないといえる。

(68) a. But it is pointless and unhistorical to condemn the absence of
“democracy” in the recruitment of diplomats when Europe in
general was still so far from being democratic . (BNC, HY5)

b. Couldn't anyone tell she was crazy for him and further from
acting a role than at any time in her entire life? (BNC, JXU)

イディオム化している *far from* の中には、最初からレキシコンで副詞として生成しておくより、主要部・非主要部不一致による統語的再分析によって生成したほうがよいものがあるように思われる。

5. 結び

本稿ではこれまであまり議論的になることがなかった慣用句としての *far from* を取り上げ、戦前から語法・文法の分野で行なわれてきた議論を概観し、日英の英語辞典の記述を検証してきた。また、約 300 の实例をもとに最新の *far from* 句の語法を確認してきた。

語法研究はしばしば「木を見て森を見ず」と揶揄されることがあるが、理論研究では往々にして森ばかり見て肝心な木を見ることをおろそかにする傾向がある。両研究はお互いに補完し合うものであり、その意味で本研究では *triviality* に徹底的にこだわってきた。今後はさらに用例の数を増やし、記述力を高める必要がある。

残された課題としては、まず、東 (1983) が指摘した、*far from XP* と否定の関係がある。1章で指摘したように、*far from* は否定の形態素を持たないが否定の意味を表す慣用句であり、この句に *never* や *not* などの否定の語句がつくこと自体有標であることに間違いはない。今回のデータを見ても *XP* が (i) *being + NP*, (ii) *being + AP*, (iii) *AP* の場合には、*far* の前に否定辞が現れにくいといえるが、このことについては稿を改めて論ずることにしたい。

次に *far from being + AP* の曖昧性の問題がある。*Mary is far from being innocent* は *Mary is being innocent* の否定とも *Mary is innocent* の否定とも解釈可能で曖昧であるのに対して、*Mary is far from innocent* は *Mary is innocent* の否定の解釈しかできないと言われている点については今後詳しいインフォーマント調査が必要である。

3番目の問題は、*being* の有無による意味の問題である。*far from being a scholar* が概念上の距離しか表せないのに対して、*far from a scholar* は曖昧で概念上の距離と空間上の距離のいずれも表せるとされるが、その実態については今後の調査によって明らかにされる必要がある。

4つ目は *far from* NP に関しての問題である。*He is far from (being) happy/intelligent.* と対照的に、**He is far from happiness/intelligence.* は文法的であっても容認されない。これに対して、*far from* の補部が同じ抽象名詞であっても *This work is far from completion.* のような場合は問題なく容認される。*far from* NP にはある種の慣用語法的な側面があるように思われるので、今後は以上の4つの問題点を明らかにしつつ、精緻な語法記述を目指していきたい。

注

* 本稿は、大学英語教育学会 (JACET) 英語辞書研究会ワークショップ (2009年3月14日、於：成城大学) において、「*far from* 句の語法をめぐって～意味と形式のくずれ>と連続体」という題名で口頭発表した内容に加筆・修正を施したものである。本稿は2009年度成城大学特別共同研究 (「現代英語の多様性と合理性に関する実証的研究」) 助成費による研究成果の一部である。

1 Bolinger (1977: 27) は *far (from)* を動詞以外の内在的否定辞 (*inherent negatives*) として以下の例をあげている。

- i) a. Is it far (a long way) from here?
- b. It isn't far (a long way) from here.
- c. *It's far from here.

彼は (ic) を容認できないとしているが、次のように何らかの強調が加われば肯定文でも容認可能になると述べている：

ii) It's far, far away from here. (cf. It's a long way from here.)

far の重複以外に、*quite, too, terribly* などの副詞を伴って *far* の意味が強められる場合にも可能となることを指摘しておきたい。

iii) Perhaps the edge is too far from the centre. (BNC)

2 今回の調査のため筆者は、全国の大学をはじめとする研究機関で発表された紀要論文を収録した論説資料保存会編『英語学論説資料』の文法・語法の分冊を第1号 (昭和42年度分) から第40号 (平成18年度分) まで41

- 年分を調べたが、*far from* に関する研究論文を見つけないことができなかった。
- 3 本誌は 154 巻 (2009 年 3 月) をもって冊子体での刊行を終了し、その後電子版に移行している。
 - 4 戦前のこの当時は月に 2 回発行されていた。
 - 5 (当時の) 中学 3 年程度の構文でありながら文法書や辞書に用例が挙げられてないことを非難しているところが興味深い。
 - 6 おほの氏が *far from* を一種のイディオムであるとみなしたのは、当時の参考書『応用英文解法』(深澤由次郎著)に「adverb, adverbial phrase として adj. past participle を修飾するもの」とあったことによる。筆者はこの文献を入手することはできなかったが、70 年前から辞典には *being* が省略されている形もしくは *being* がカッコに入っている用例があったことがわかる。以下は、おほの氏があげている例である。
 - i) He is far from (being) honest. (『クラウン英和辞典』)
 - ii) It is far from perfect. (Palmer: *A Grammar of English Words*)
 - iii) a. I feel far from [being] comfortable.
b. She is far from strong. (Krüger: *Schwierigkeiten*)
 - 7 Prepositions and prepositional groups as subjuncts of degree (MEG IV 23.6 (1)) にあたってみると、“... some prepositions and prepositional groups may be used to indicate a degree and therefore may govern as adjective or adverb, though the object of a preposition is generally a substantive (a primary).” (p.386-387) とあり、直後に *about* の例 (*I am about tired to this /I was about ready/Is your work about finished/about as tall as his father*) がある。続く 23.6(2) では *far from* も同様に用いられるとして、多くの用例が見られる。
 - 8 Jespersen は前掲書で *far from* + 形容詞 (句) の用例のあと、“This of course is grammatically different from the very common use of a verbal substantive in *-ing* (which may have a predicative) after *far from*, as in Defoe R. 2.164 he was far from being easy” と述べている。
 - 9 当時の英語学徒から聞かれる (*being* の有無による) 口調や語感の違いに関するコメントが興味深い。英語母語話者の発話を生で聞く機会が少なかったであろう戦前にあって、英語を勉強する者がいかに英語の書物をいかに読み込んでいたかがわかる。
 - 10 日本の英語学は伝統的に英語教育と密接に結びついてきたために、古くか

ら語法研究がさかんである。日本の語法研究を盛んにした要因としてあげられるのは『英語教育』の創刊後に始まった Question Box 欄や昭和 35 年頃から『英語青年』誌上ではじまった「語法研究」の欄だといわれているが、実は昭和初期にはすでに語法に関する議論が活発に行なわれていたことがわかる。

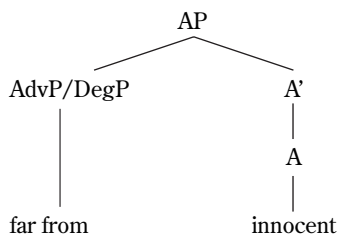
- 11 大塚（編）（1961）には言及されていないが、副詞的修飾語句としての So far from ~ ing が Far from ~ ing と be so far from ~ ing that の融合形とするのは Curme（1931）に由来する。Curme（1931: 285）は、“So far from doing any good, the rain did a good deal of harm.” が “Far from doing any good, the rain did a good deal of harm.” と “The rain was so far from doing any good that it did a good deal of harm.” の blend（混合）であると述べている。
- 12 この辞典の改訂版（大塚・小西（編）1973）では、語法の記述に目新しいものは見られないが、文学作品からの用例でなく、アメリカの雑誌から採取した最新の例に差し替えられている：
- i) a. In view of all this, whatever agreement is hammered out as SALT is sure to be far from comprehensive on the offensive-missile issue
– *Newsweek*, May 1971
- b. Far from being flattered by her interest, I found it a meddlesome nuisance.
– *Cosmopolitan*, July 1971
- 13 Akimoto（2001）によると、being が介在する形は 17 世紀に登場し、18 世紀以降特に多くなったという。far from に直接後続する形容詞は 17 世紀より現れ、19 世紀以降多くなることを指摘している。ただし、being が文頭の副詞的修飾語句 (so) far from に後続する形で出ているものなのか、be 動詞の補語として現れるもののみを指しているのか不明である。
- 14 この例は言語学の論文からのものである。実際には以下の (i) に示すように but に導かれる等位接続節を伴っている。筆者のインフォーマントによると、この文の容認可能性は大変低い。このことを配慮してか Kajita の統語的再分析を紹介した McCawley（1988: 756）はこの例を(ii)のように一部改変している。
- i) It far from exhausts even all the relevant considerations, but our aim is not to examine any one parenthetical verb exhaustively; rather it is to shed new light on them all by presenting them as a group. (Urmson 1963: 232)

ii) These points far from exhaust the relevant considerations.

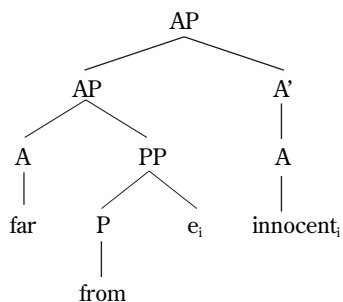
15 far from をイディオムと見なさないことについては次章で取り扱う。

16 Inoue (1995) は Kajita (1977) のような劇的な downgrading (格下げ) を仮定するのではなく、標準的な生成文法理論の枠組みの中で副詞化した far from の表示の仕方について論理的可能性を探っている。以下の樹形図では、左が Kajita モデル、右が Inoue モデルである。

i) Kajita (1977)



ii) Inoue (1995)



far from をあくまで AP (形容詞句) と見なす Inoue (1995) モデルは意味論的には次のように表示される： $\lambda x (\text{far from } x) \text{ innocent}$

Inoue (1995) は動詞句を修飾する far from の実例 (iii) をあげているが、インフォーマントによると、この文の容認可能性も低い。

iii) Unfortunately, particularly in the humanities, such joint ventures far from represent a practice.

(A. Allison and T. Frongia (eds.) *The Grad Student's Guide to Getting Published.*)

なお、Riemsdijk (2001) が far from 句を分析する際に grafting (接ぎ木) という、当該の統語構造を多元的に樹形図で表す分析を提案しているが、可能な文法の範囲を緩めているだけで根本的な解決になっていない。

17 この章では慣用句としての far from 句の語法に焦点を絞っているため、far from の一つの変異形であり口語体で用いられる far be it from me to do (but …) と間投詞的独立句である Far from it は取り扱わない。

18 それぞれの辞典の正式名は巻末の参照辞典の表にあげる。

19 ちなみに、OALD の前身である *Oxford Advanced Learner's Dictionary*

of *Current English* (1974) は *Your work is far from (being) (=is not at all) satisfactory. The newspaper accounts are far from (being) true.* の 2 例をあげ、*being* をかっこ付きで表示している。

参照辞典

Cambridge Advanced Learner's Dictionary Third Edition (2008) [CALD³]
Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary Fifth Edition (2006)
[COBUILD⁵]
Longman Dictionary of Contemporary English Fourth Edition (2008) [LDCE⁴]
Macmillan English Dictionary (2002) [MED]
Oxford Advanced Learner's Dictionary Seventh Edition (2005) [OALD⁷]
Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English (1974)
The Oxford English Dictionary Second Edition (1989) [OED²]

『アドバンストフェイバリット英和辞典』(2002)
『アンカーコズミカ英和辞典』(2008)
『ジーニアス英和辞典』第4版(2006)
『ジーニアス英和大辞典』(2001)
『研究社新英和大辞典』第6版(2002)
『ロングマン英和辞典』(2007)
『ルミナス英和辞典』第2版(2005)
『オーレックス英和辞典』(2008)
『スーパー・アンカー英和辞典』第3版(2003)
『ウィズダム英和辞典』第2版(2007)

参考文献

- Akimoto, M. 2001. "How far has *far from* become grammaticalized?" *Historical Linguistics 1999: Selected Papers from the 14th International Conference on Historical Linguistics, Vancouver, 9-13 August 1999*, 1-11. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- 安藤貞雄・山田政美（編）. 1995. 『現代英米語用法事典』東京：研究社.
- Bolinger, D. 1977. *Meaning and Form*. New York: Longman.
- Burchfield, R. W. (ed.) 1996. *The New Fowler's Modern English Usage*. Third Edition. (First edited by H. W. Fowler) Oxford: Clarendon Press.
- Curme, G. O. 1931. *A Grammar of the English Language. Volume II: Syntax*. Boston: D. C. Heath and Company.
- 東 信行 . 1983. 「far from の諸相」『英語青年』1983年6・7月号 .
- 細江逸記 . 1942. 『精鋭英文法汎論』第1巻 東京：泰文堂 .
- _____ . 1954. 『精鋭英文法汎論』13版 . 東京：泰文堂 .
- _____ . 1966. 『精鋭英文法汎論』訂正版 . 東京：篠崎書林 .
- Inoue, T. 1995. "Some remarks on a syntactic reanalysis." The 6th LSO (Linguistics Student Organization) Linguistics Conference での口頭発表 (1995年4月15日、於：The University of Wisconsin-Madison)
- Jespersen, O. 1931. *A Modern English Grammar on Historical Principles Part IV*. London: George Allen and Unwin Ltd. Copenhagen: Ejanar Munksgaard.
- 金口儀明 . 1968. 「being の有無」『英語青年』6月号 , p. 34.
- Kenesei, I. and R. M. Harnish (eds.) 2001. *Perspectives on Semantics, Pragmatics, and Discourse: A Festschrift for Ferenc Kiefer*. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Kajita, M. 1977. "Towards a dynamic model of syntax." *Studies in English Linguistics* 5, 44-66.
- 小西友七（編）. 1989. 『英語基本形容詞・副詞辞典』東京：研究社.
- _____ . 1974. 『英語前置詞活用辞典』東京：大修館書店.
- McCawley, J. D. 1988. *The Syntactic Phenomena of English*. Volume 2. Chicago: Chicago University Press.

- 大塚高信（編）. 1961. 『英語慣用法辞典』 東京：三省堂 .
- _____ · 小西友七（編）. 1973. 『英語慣用法辞典』 改訂版 . 東京：三省堂 .
- Poutsma, H. 1928. *A Grammar of Late Modern English. Part 1 The Sentence First Half*. Second Edition. Groningen: P. Noordhoff.
- Riemsdijk, H. van. 2001. "A far from simple matter: Syntactic reflexives of syntax-pragmatics misalignments." In Kenesei, I. and R. M. Harnish (eds.) . 2001, 21-41.
- 田島伸悟 . 1983. 『英語名人 河村重治郎』（三省堂選書 96）東京：三省堂 .
- 渡辺藤一 . 1960. 「Question Box 102. far from (being) perfect」 『英語教育』 3月号 . p. 28-30.
- Wood, F. T. 1967. *English Prepositional Idioms*. London: Macmillan.
- 八木克正 . 1996. 『ネイティブの直観にせまる語法研究—現代英語への記述的アプローチ』 東京：研究社出版 .